

江東区 旧大石家住宅

● 調査、保存、文化財指定にいたった経緯。残そうとした当時の状況を紹介

旧大石家住宅は、江戸時代(19世紀半ば頃)に建てられた江東区区内最古の民家建築です。安政2年(1855)10月に発生した「安政の大地震」、大正6年(1917)9月に発生した高潮、大正12年9月1日の関東大震災、さらに昭和20年(1945)3月の東京大空襲といった戦災など、いくつもの災害をまぬがれ、建築当初の姿をとどめた貴重な住宅です。

平成8年(1996)3月現在地に移築復元しました。移築・復元は、後世の建て増し部分を含めず、「当初の形態に復元すること」を前提としました。

● 公開当初と現在の違い。写真での比較など

平成28年度(2016)に茅葺き屋根の葺替え工事を実施しました。屋内の照明も交換しました。



葺替え工事後の茅葺き屋根



交換後の屋内証明

● 公開後の保存活用の取り組み。将来へ残すための活動を紹介

旧大石家住宅友の会(ボランティア)を組織し、ボランティアによる平日の清掃活動、囲炉裏の火入れを実施しています。